

操作手順（詳細）

① 内容物の確認

内容物が全て揃っている事を確認してください。

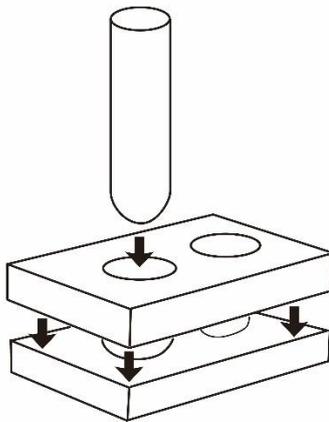
- | | |
|--------------|-----|
| ・スクリーニングデバイス | 1 個 |
| ・綿棒 | 1 本 |
| ・検査液 | 1 本 |
| ・チューブ | 1 本 |
| ・チューブキャップ | 1 個 |
| ・チューブ立て | 2 個 |

※インフルエンザウイルス A 型/B 型の検査が付属しているか否かでスクリーニングデバイスが異なりますが内容物は変わりません。



② 検査前にまず、鼻をかみます。

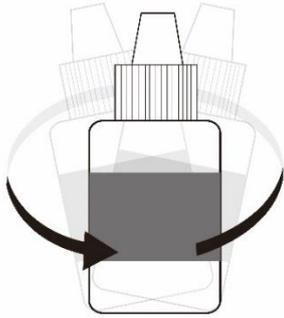
※この際に鼻血が確認された場合は、鼻からの検体採取は避け、口からの検体採取を選択してください。



※チューブ立ては2つ重ねてご使用ください。

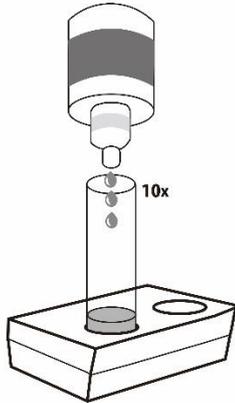
③ チューブ立てにチューブを立てます。

チューブ立ては 2 個ありますが、2 つ重ねて使用してください。



④ 蓋をした状態で検査液を軽く混和させます。

※検査液は泡立たない程度に混和してください。



⑤ 混和させた検査液を全量チューブに入れます。



鼻の奥(鼻咽頭から採取)



鼻の中(鼻腔から採取)

⑥ <鼻から検体を採取する場合>

綿棒の包装を開封して綿棒を取り出します。

鼻から綿棒を挿入し、鼻咽頭に触れたら 10 秒程度転がし、分泌液を採取します。

※綿棒は付属の綿棒を使用してください。

※検査結果は、採取方法に大きく依存します。擦過が不十分だと適切な検査結果が得られない場合があります。

※少しでも不安がある方は検査を中止するか、医師の指導の下検査を行ってください。

⑥” <口から検体を採取する場合>

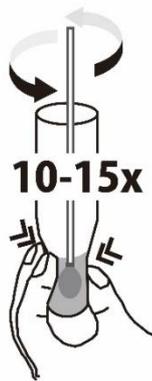


綿棒の包装を開封して綿棒を取り出します。
口(または鼻)から綿棒を挿入し、中咽頭(または鼻咽頭)に触れたら 10 秒程度転がし、分泌液を採取します。

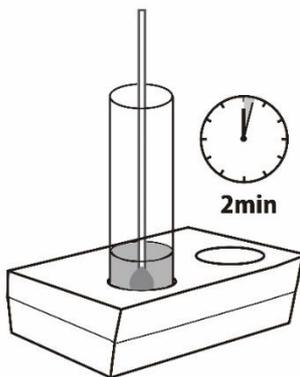
※綿棒は付属の綿棒を使用してください。

※検査結果は、採取方法に大きく依存します。擦過が不十分だと適切な検査結果が得られない場合があります。

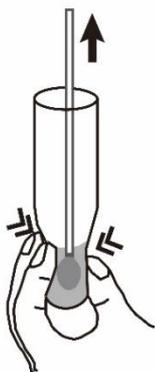
※少しでも不安がある方は検査を中止するか、医師の指導の下検査を行ってください。



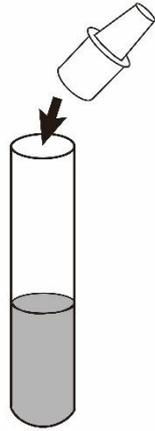
⑦ 分泌物が付着した綿棒をチューブに入れ、中で回転させ、チューブの壁を指で押しながら綿棒の先を 10~15 回ほど絞るようにして抗原を抽出します。



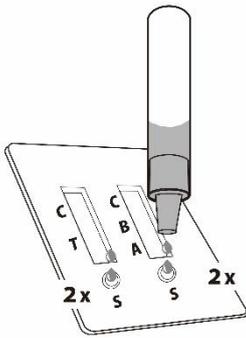
⑧ 綿棒を入れた状態で 溶液を 2 分間放置します。



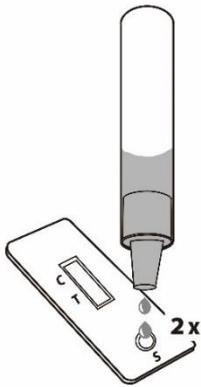
⑨ 綿棒が吸収した検査液ができるだけチューブに残るように、チューブ越しに綿棒をつまみ、綿棒を取り出します。



⑩ チューブの先端に付属のキャップをつけます。



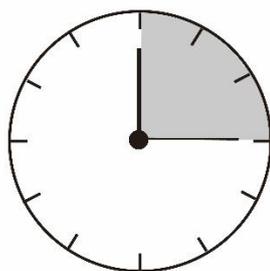
インフルエンザA型/B型がある場合



インフルエンザA型/B型がない場合

⑪ スクリーニングデバイスの包装を開け、清潔で水平な面に置きます。スポイトキャップのついたチューブを逆さまにして、検体ウェル(S)に2滴ずつたらしめます。

※決して検体ウェル(S)以外にたらしさないでください。



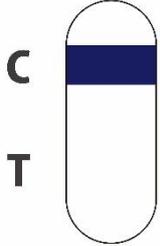
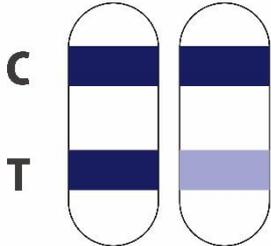
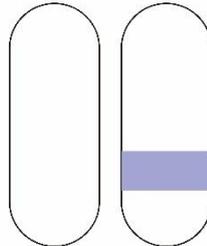
15min

⑫ 15分後に検査結果を確認します。

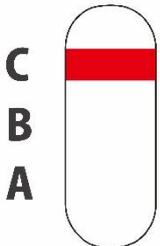
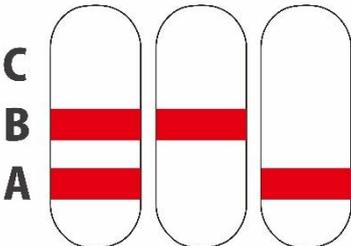
※インフルエンザA型/B型を含む検査の場合、左側が新型コロナウイルス抗原検査、右側がインフルエンザA型/B型の検査となります。

※滴下後 15分経過時の結果を確認して下さい。15分を過ぎた検査結果は、無効となります。

新型コロナウイルス抗原検査の結果の見方

		
<p>陰性 (Cに1線が現れます)</p>	<p>陽性 (2本の線が現れます)</p> <p>※Tエリアの色はウイルス核タンパク質の濃度に依存します。しかし線が認められた場合は全て陽性となります。</p>	<p>検査無効 (Cに線がない)</p> <p>※手順を確認し、新しいテストキットでテストをやり直してください。不十分な検体量、不適切な操作手順、または期限切れのテストが、制御ラインの故障の最も可能性の高い理由です。</p>

インフルエンザA型/B型検査の結果の見方

	 <p>インフルエンザA型 陽性</p>	 <p>インフルエンザB型 陽性</p>	
<p>陰性 (Cに1線が現れます)</p>	<p>陽性 (Cを含む2本以上の線が現れます)</p>	<p>検査無効 (Cに線がない)</p> <p>※手順を確認し、新しいテストキットでテストをやり直してください。不十分な検体量、不適切な操作手順、または期限切れのテストが、制御ラインの故障の最も可能性の高い理由です。</p>	